

Top Amateur

# トップアマチュア 世界の

今年2月パリにて行われた第17回国際アマチュア・ピアノコンクールにて、審査員・聴衆から圧倒的支持を受けて優勝したカナダ在住の Thomas Yu さん。「アートは自分の人生そのもの」と語る Yu さんに、音楽との関わり、また本職である歯科業をいかに両立しているかをお伺いした。また現在パリ在住の新田英之さんも今回のコンクール出場者の1人。キュリー研究所での多忙な仕事の傍ら、ピアノも徹底した基礎に裏打ちされた演奏を追求する。彼らにとって、ピアノはどのような存在なのだろうか？

海外で活躍するアマチュア◎ Thomas Yu さん（カナダ・トロント在住 / 歯科医）

## 音楽は人生そのもの

—決勝では素晴らしい演奏を聴かせて頂きました。

パリの国際アマチュア・ピアノコンクールは、とても良い経験になりました。ここには、参加者同士で声をかけ、励ましあう雰囲気があります。実は2005年度ワルシャワのシヨパン国際コンクールにも参加したのですが、全員が大変なプレッシャーの中で本番を迎えなければならず、その上、勝者は350名中1名だけという過酷さです。一方パリでは、ピアノと仕事、二つの情熱を併せ持てるという意味において、全員が勝者になれるのです。

—ピアノを始めたきっかけを教えてください。

ピアノは姉2人の影響で4歳から始めました。家で2人が練習しているのを見て刺激を受け、自分の番が来ると姉の演奏をそっくり真似て弾いていたそうです。その頃から正式にレッスンを受け始め、コンクールにも参加しました(カナダの

国内コンクールで過去9回優勝)。

現在は歯科の専門学校にも通っていますが、毎日2時間はピアノに向かうようにしています。歯科医としての仕事では頭を使い、患者に丁寧に対応することを心がけますが、音楽は私のエネルギーを方向転換し、より野性的にしてくれます。この二つの情熱があるからこそ、自分の人生は絶妙なバランスが取れていると思います。とはいえ、1日が終わる頃にはさすがに疲れますが(笑)。

—ユーさんにとって音楽とは？

音楽、そして芸術は私の人生そのものですね。「ピアノを弾かなければ、もっと楽な人生になるのに」と忠告する方もいますが、私はどんなに忙しくてもピアノを中断したことはありませんし、音楽に心からの情熱を持っています。またそれをこの上なく幸運だと思っています。今年12月には、パリでラフマニノフ協奏曲第3番を演奏する予定です。夢が一つかなくなりました！

【お知らせ】2006年2月に、第30回ピティナ・ピアノコンペティション グランミューズ部門入賞者記念コンサートにゲスト出演が決定！詳しくは後日ご案内します。

### Thomas Yu

トーマス・ユー◎トロント大学にて歯周病学修士号取得。グレン・グールド王立音楽院(トロント)にてマーク・デュラン氏に師事。カナダ音楽コンクール、カナダ連邦音楽指導者主催コンクール始め、9つの国内コンクールで優勝。CBCラジオ、ラジオ・クラシック等、録音多数。France 2やCBC TV等、テレビや新聞などメディアでも取り上げられる。これまでに、サル・ガヴォー(仏)、オタワ国立アートセンター、トロント・アートセンター等で演奏。またサスカトーン、レジャイナ交響楽団と共演。今後はパリ音楽院管弦楽団との共演ほか、フィレンツェ、ワシントン、オタワ等で演奏予定。



海外で活躍するアマチュア◎新田英之さん（パリ在住 / キュリー研究所勤務）

## パリで最先端ナノバイオ研究、ピアノも本格派

—パリ在住者として参加したコンクール、いかがでしたか？

現在パリでは岩崎セツ子先生のご紹介で、幸運にもオリヴィエ・ギャルドン先生（パリ音楽院教授）に師事しています。実は本番2週間前に先生のアドバイスにより、曲目を変更しました。左手だけの曲や、暗譜しなかったのもあったので結果は残念でしたが、参加して大変刺激になりました。音大卒も多く、ファイナリストもハイレベルでした。勿論プロと同じ土俵では評価できませんが、上位に残るのは小さい頃から音楽の専門教育を受けてきた人が多いですね。

—これまでどのような先生に習っていらっしゃいましたか？

20歳頃までは水泳やバスケットボール等スポーツ中心の生活でしたが、その後鈴木美子先生や太田戸紫子先生らに出会ってピアノの基本を教わるようになり、その奥深さに惹かれていきました。最近田崎悦子先生にもお世話になっております。先生方は「人を楽しませるには自分が苦しまなくてはならない」などと、いつでも人に聴かせるための演奏を求める方ばかりでした。現在師事しているギャルドン先生は、アマチュアの生徒は初めてだそうです。やはり妥協を許さず、基本的なテクニックから厳しく教えて下さいます。彼は初めての曲でも即座に様式や構成を把握し、具体的な奏法を分かり易く教える能力が卓越しています。

—パリでの日常生活を教えてください。

朝8時から2時間ソルボンヌ大学でフランス語の講義を受けて、その後19時頃までキュリー研で仕事をします。帰宅



▲ノーベル物理学賞、化学賞受賞者キュリー夫人の研究室が当時のまま保存されている。新田さんはこの上の階に机を構えている。

後は深夜まで東大やイギリスなどから送られてくる仕事をするので、ピアノは東京にいる時と同様、週に1程度しか弾けません。

ヨーロッパの研究者と一緒に仕事をして感じるの、彼らは議論が好きで、効率を追求してなるべく時間をかけないようにする傾向があり、単純な計算ミスをしてあまり気にしない。日本人の方が



▲パリ中心部にあるキュリー研究所。ピエール、マリー・キュリー夫妻の銅像が庭の片隅に立つ。新田さんはここでDNAなどの生体分子を一分子単位で計測・評価することを目標に、マイクロ・ナノ操作技術に重点を置いた研究を行っている。

多くの時間と労力をかけて、結果的に多くの成果を出そうとしますね。

一方ピアノでは、日本人はミスしない事を重視する傾向も見られますが、外国人はなるべく各々の個性や良い所を評価しよう、という文化があるように思います。

—仕事にピアノに、パリでも大変お忙しいようですね。

常に結果を出し続けなければならないという点では、どの国にいても同じです。しかしパリでは仕事が早く終わった場合、気軽にシャンゼリゼ劇場などで一流音楽家達による演奏が聴けるなどの音楽的環境には恵まれています。

現在パリでプレイエルのピアノをレンタルしていますが、今までに出会った事のない、とても優しい音がします。このピアノだと、サン・サーンスやショパン等を弾きたくくなります。



▲象牙鍵盤でアクションは2世代前というプレイエルは、貴族の邸で約100年間保存されていたもの。トレーニング用に各鍵盤に鉛の重りをつけたそうだ。コンクールではショパン：ノクターン20番とモゼフ・ディビラー：左手のためのカプリチオ（献呈：太田戸紫子先生）を演奏。

### 新田 英之 Hideyuki Arata

1980年沖縄生まれ。東京大学工学部卒、同大学院博士課程在学中。24歳で英国王立化学協会論文レフリー、フィリップ・シャープ教授（ノーベル生医学賞受賞）の助言により分子生物学一分子観測の分野へ。ジャン＝ルイ・ヴィオヴィ教授（キュリー研究所）から“Extremely talented scientist”と評され、博士号取得前としては初・最年少でキュリー研究所と契約。平成17年度東京大学工学系研究科業績優秀者選抜第1位。日本学術振興会特別研究員。